

コラム

## 幻の東京オリンピックと鶴見

「お・も・て・な・し」が一躍流行語になり、日本中が再招致決定に湧いた2020年東京オリンピック。前回開催は、高度経済成長転換期と言われた1964年のことでした。

しかし、実は、それより以前の1940年、一時は開催が正式決定したものの、日中戦争などの影響により実現に至らなかったことから、「幻」と呼ばれた東京オリンピックがあったことをご存知でしょうか？

### ◆ 第二京浜国道と響橋（めがね橋）

「幻の東京オリンピック」のマラソンコースとして、明治神宮競技場をスタート地点とし、総持寺付近で折り返す案が持ち上がり、ルートとなる第二京浜国道は、オリンピックの開催に合わせて急ピッチで整備されました。

また、「かながわの橋100選」にも選ばれた“めがね橋”こと響橋は、このマラソンコースの折り返し地点のランドマークとして建設されたものです。

計画が実現していれば、文字通りこの橋の下で、選手たちに向けた声援が響き渡る光景を見ることが出来たのかもしれませんが。



第二京浜国道をまたぐ響橋（1956年頃）  
横浜市史資料室所蔵

### ◆ 世界に誇るボートレース会場

「幻の東京オリンピック」の計画段階では、末吉橋を中心とした鶴見川の下流部に、長さ約3,000メートル、幅約86メートルのボートレース会場を建設する計画もありました。

川の両岸に道路や一大公園を設け、電車やバスを走らせる予定もあったこの計画を、「世界に誇り得るもの」と、当時の「市政春秋」は伝えています。

この他にも、アントワープオリンピック水泳予選会場となった房野池（跡地：市営岸谷プール）、1964年の東京オリンピックで聖火が通過した鶴見区役所、北京パラリンピックのボート競技代表の練習場となった鶴見川漕艇場など、区内には、オリンピックと縁深い場所がまだまだあります。



2020年東京オリンピックでも、鶴見区に関する場所や人の活躍に期待しましょう。

